



# 守られ続ける古の風景

## — 五箇山 —

北陸新幹線・新高岡駅から在来線に乗り換え、さらに車でしばらく走ると現れる雄大な山々。日本の原風景をそのままに残し、豊かな自然に囲まれた五つの谷からなる地、五箇山。富山県の南西部に位置し、四季折々に姿を変える美しく情緒あふれる地だ。

### 合掌造り

〜家屋に込められた

先人の知恵〜

平成7年、五箇山の合掌造り集落が世界文化遺産に登録された。掌を合わせたような大きな茅葺き屋根が特徴の合掌造り。その形状は見る人々の興味を引き付けるが、合掌造りの魅力は単に見た目だけではない。「五箇山の雪は湿気を含み重たいので、屋根は雪が落ちやすいよう急勾配。梁には五箇山



国指定重要文化財・村上家の当主。五箇山の歴史や民謡を聴かせてくれる。

の雪深い地で成長した曲がった樹木をあえて使い、雪の重さや地震、風などの衝撃にも柔軟に対応できる構造となっているんですよ」と、五箇山で暮らす村上さんが教えてくれた。

他にも屋根の勾配によりできあがる屋根裏の広い空間は、作業場としても使用

され養蚕業を行っていたという。この地の気候風土によって得られる資材や空間を上手に利用したりと、厳しい自然環境の中で生き抜くための先人たちの知恵があちらこちらに垣間見ることが出来る。また、古いものは400年前に建てられたといわれる合掌造りの家屋が当時のままの姿で残っているのは、そこに住まう人々の絶え間ない努力があるからだという。手入れを怠らず大切に守りながら暮らす人々の心を感じられるのも、合掌造りの魅力だ。





## “五箇山和紙”



他の和紙に比べ強靱かつ何ともいえない風合いで人々を魅了する五箇山和紙。原料である楮こうぞから育て、化学薬品を使わずに五箇山の気候を利用した「雪さらし」という、大変手間のかかる作業を行う。その後一枚一枚手作業で丁寧にすき上げられる手間暇のかかったその和紙からは、厳しい冬の作業に従事する職人の心と、上質でぬくもりあふれる優しさを感じられる。



## 信仰に培われた精神風土

五箇山の地には浄土真宗の教えが深く根付いている。住民総出で行う茅葺き屋根の葺き替え作業に見られる住民相互援助制度「結ゆい」は、まさにその教えに基づく「支え合いの精神」を表しており、今でも「個人のことは皆のこと。皆のことは地域のこと」と何かあれば協力し合う気風が残っているという。また積み重ねられた念仏の生活の中で生まれた、誰もが「生かされている」ことに感謝しながら生きていく「一」という思想も五箇山人々の根底に流れているもので、全ての縁に感謝し、今を大切に生きているのだとか。五箇山の人々が土地のものを大切にすることも温かい人柄なのはこのような教えがあったからなのだろう。



ライトアップされた相倉集落

南砺市観光協会の山崎さんは五箇山について「自然も含め今もお残っているものは、先人たちが「大切なもの」と暮らしの中で教えてくれたこと。だから『守らなきゃいけない』というより『守るのが当然』と思っています。日々のことを当たり前と思わずに、良いことも悪いことも「あたわったもの」として受け入れるからこそ、五箇山のものには全て「心」が備わっています」と語ってくれた。(※方言で「与えられる」、「宿命」を意味する)



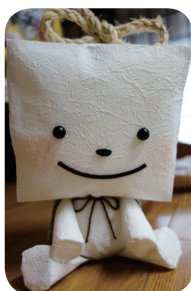
取材の翌朝、太陽が昇りきる前に外へ出てみた。朝霧あさぎりがかかった五箇山と合掌造りが織りなす景色は、まるで別世界のような神秘的な空間で、そこには五箇山を守る神様がいるのではないかと思わせるほどだった。静けさの中、湧き水の流れる音や鳥の鳴き声に耳を傾け、澄んだ空気を胸いっぱい吸い込むと、心が洗われ穏やかになり、今ここに居ることや全てに感謝の気持ちが自然とあふれた。

人々の努力と心により伝統が大切に受け継がれ続けている五箇山。きれいな水と空気と豊かな自然、そしてそこに暮らす人々の営みがつくり上げたこの風景や風土は、これからも訪れる人々を魅了し続けるだろう。



相倉集落

集落内には  
カフェや民宿も!



五箇山とうふの  
“とっぺちゃん”

菅沼集落



茶房「掌」  
マスターのいれる抹茶やコーヒーでホッと一息。



合掌のお宿「庄七」  
いろいろを囲みながらいただく、地元の旬の素材を使った夕食は絶品!